

震災直後から、宮城県亘理町に派遣された「緊急消防援助隊」の報告をのりこ応援団で聴きました。

第1次隊員は、市石正樹小隊長以下5名。  
地震が発生した3月11日の夜8時過ぎには、愛知県新城市を出発。  
終結した「愛知県消防84名・消防車両19台」で、  
20時間余かけて宮城県に到着。  
仙台市から約250km、仙台空港の南にある亘理町で、13日早朝から  
津波による行方不明者の捜索にかかったそうです。

5月31日現在で、亘理町の死者は924人・不明者76人。  
人口5万人の町で、避難していた人が多かったそうですが、厳しい現実です。  
12名を救助、144名の遺体を収容…  
被災地の倒壊・半倒壊の家屋内、転覆した自動車の中を  
1つ1つ目視しながらの捜索活動、記録映像を交えての話でした。

飲まず喰わずで、人が生存できるのは72時間以内。  
災害時の救出には、この72時間にどれだけ頑張れるかが勝負といえます。  
今回も、発災から40分後には出発準備指示があり、ともかく東北をめざし、  
救助地がどこかも、道中に指令を受けながらだったとのこと。  
頻繁な余震に襲われながら、泥の海と瓦礫の中での活動を映像で見つつ、  
みな本当に感謝し、信頼の思いで一杯になりました。

亘理町では、ある程度は避難命令が行き渡っていたそうですが、  
いちご農家が多く、一旦は避難しても、温室の扉を閉める作業に戻ったり  
作業中だったために被災した人も多かったのだそうです。

今回の震災には多くの救援が入りましたが、消防全体では28,600人  
7,600隊の派遣。  
西尾市からも、2日後派遣の2次隊はじめ、震災後の1ヶ月間に  
30名が交代で派遣されています。  
総務省消防庁の指揮の下、  
都道府県毎に編成派遣される「緊急消防援助隊」の機動力は、阪神大震災を  
教訓に、より迅速な救援活動をめざしてつくられたといえます。  
今回、その成果をしっかりと発揮されていることに敬意を表すばかりです。